表２ 新型コロナウイルスの（SARS-CoV-2）懸念される変異株 (Variants of Concern; VOCs)

2022.3.28 9:00時点

WHOの呼称	デルタ	オミクロン
最も早期の検体例	インド（2020年10月）	南アフリカ（2021年11月）
PANGO系統	B.1.617.2, AY.x	B.1.1.529, BA.x
GISAIDクレード	G/478K.V1	GR/484A
Nextstrainクレード	21A	21K(BA.1), 21L(BA.2)
Sタンパクの主要変異	L452R, T478K, D614G, P681R	BA.1/BA.2 系統共に有する主要な変異：G142D, G339D, S373P, S375F, K417N, N440K, S477N, T478K, E484A, Q493R, Q498R, N501Y, Y505H, D614G, H665Y, N679K, P681H, N764K, D796Y, Q954H, N969K
感染・伝播性	• 感染・伝播性の上昇	・感染・伝播性の上昇（BA.2ではより上昇） ・２次感染率の上昇（BA. 2 ではより上昇） ・発症間隔の短縮 ・潜伏期間の短縮
重篤度	• 入院リスクの上昇	・（デルタ株と比較して）重症化リスクの低下
再感染性 （抗原性）	•前回感染後180日以上経過した場合、アルファ株に比べて再感染リスクが高まるという報告がある •非変異株やアルファ株に比べて回復者血漿による中和能が４倍程度低下の報告あり*1	・BA. 1 系統はワクチン接種や自然感染による免疫を逃避する性質がある。
ワクチンの発症、感染に対する有効性	• 発症と感染に対して若干の減弱の可能性があるものの、重症化に対しては不変	・2回接種による発症、重症化予防効果はデルタ株と比較して低下 ・重症化予防効果（入院および死亡予防効果）の低下は、発症予防効果の低下の程度と比較すると保たれる。 ・いずれの予防効果も3回目ブースター接種により再度効果が高

*1 in vitro（試験管内）での評価結果はin vivo（生体内）で起こる現象を正確に反映しないこともあり、本結果の解釈に注意が必要。